

委員名	個人や団体で現在実施しているSDGsに貢献する取組について	取組を進める上での課題等について
立川市 社会福祉協議会 枝村 珠衣 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰もがふつうにくらせるしあわせなまち立川」を理念に掲げ、あらゆる世代を対象に「市民主体の地域活動支援」「総合相談支援」「在宅生活支援」に取り組んでいる。 ・立川市地域福祉計画(行政計画)と立川市地域福祉市民活動計画(市民活動計画)を両輪とし「地域福祉アンテナショップの設置」「地域福祉コーディネーターによる地域づくり」「まるごと相談支援」を重点推進している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「経済的貧困」への対応だけでなく「つながりの貧困」を防止するため、生活支援と併せた貸付事業や、地域密着型及びテーマ型で「人と人」「人と活動」をつなげる事業を展開している。 ・フードバンクやフードドライブ活動への支援を行い、困窮対策と共に食料廃棄減量の啓発に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域福祉アンテナショップの設置」「地域福祉コーディネーターによる地域づくり」「まるごと相談支援」に市民、事業者、各種団体が関わりやすくする機会と方法を豊富にすることが必要である。 ・「住み続けたい安心と愛着のあるまち」「孤立のないまち」のため、福祉領域にとどまらず、多様な方たちや機関との連携を広げたい。 ・子どもや若い世代の方たちは、貧困状態にあっても無自覚であったり、声が上げづらかったりする。配慮ある声かけや「つなぎ役」となれる人を増やす必要がある。
立川市 商店街振興組合連合会 山本 晶子 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・店前景観事業 思わず入りたくなる店前の作り方セミナーを開催。店前に置くおもてなしの三種の神器や、気を付けなければならない拒絶の形等、建物自体(全体)よりも、建物の前面の方が重要であることを伝える。ただ置いた、設置した、ではなく質感にこだわり、丁寧な「おもてなし」表現が大切。改修結果後は、売り上げが上がったとの報告を頂き、立地に係わらず、商店街(商店)にとって重要であることが、確認される。 ・個店の発信力強化事業 売上アップの為に個店の発信力に繋がるセミナーを開催。SNS 等で情報発信する際の文章作成のコツや注意点等ノウハウを習得してもらう。写真を美しく見せる為の撮影テクニックと注意点等。個店の活力を高め、更なる成長を支援。 ・農商連携プロジェクト 立川産食材を積極的に使用している市内店舗を PR。地産地消の推進、輸送距離短縮により CO₂ 軽減、地域の活性化に貢献。 ・街路灯 LED 化 平成 23 年度実績で市内 7 商店街(会)合計効果の一例。7 商店街(会)が保有する計 276 基の街路灯のうち 252 基が LED 化。約 61%の電気代の削減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店前景観事業 入りたくなるお店を増やし、入りたくなるお店が多いから歩きたくなる商店街づくりを展開していくには、並んだお店で取り組んでもらう必要性も出てくる。 ・個店の発信力強化事業 情報の伝達手段。本当に必要としてくれるお店への情報提供のツールを様々な形で持っておくことも必要。また、従来の商店街(会)イベント来街者が商店街(会)店舗の継続顧客とはならず、イベントでの購買のみが行われるという問題があることから、個店の魅力を発信していく、有効に活用する SNS での情報発信に寄与したい。 ・農商連携プロジェクト 店舗が購入しやすい仕組みづくりの確立が不十分。
チームいま好き 笹浪 真智子 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、商品や子育て支援の取組みは良くなっている一方で、女性は、家庭や社会において発言する機会をあまり得られていない現状があり、社会全体が男女平等であるとは言えない。こうした現実について、直接発言をしても、個人では角が立ってしまい、場合によっては争いのもとになり兼ねない。そのため、チームいま好きでは、「伝える、伝わる」ことに重きを置いており、こうした現実について話し合い、それらを文章化している。 ・市の女性総合センターアイムで文章講座を開催し、市民の女性の方々の生活やご意見について、毎年冊子としてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報力が足りない。人の話は聞きたいが、自ら文章を書くこと（発信）について、ハードルが高いと感じる方が多い。 ・個人のグループや団体だけでは実行の難しい企画については、行政（男女平等参画課）の支援が必要である。 ・男女平等については、特に男性の無関心が課題だと思う。男女平等は、男性から女性が何かを奪うものではなく、お互いが心地よく生活できるものであることを、アピールすることが重要である。

委員名	個人や団体で現在実施しているSDGsに貢献する取組について	取組を進める上での課題等について
立川市自治会連合会 佐藤 良子 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大山自治会は（1,500世帯）加入率100%であり、全員参加でSDGsを達成するために、2011年から生ごみのリサイクル（肥料化）に挑戦している。また、資源ごみの分別にも力を入れ、ごみの減量を行っている。住民の意識が何よりも大事なことから、常に独自の広報やチラシ等で周知をしている。また、ごみ集積所の管理を通じて、不法投棄の防止や集積所の美化をすることも大きな役割を担っている。 ・行政との連携も重要で「持続可能性」「将来を担う子どもたち世代へつなぐ」事業として、目標達成のために立川市民それぞれの立場で力を出し合う必要があることから、活動を市のホームページで発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを意識している行政、市民、自治会組織等が希薄である。SDGsのために努力していることを知らない方、知ろうとしない方がいかに興味を持てるか、理解の促進が求められている。他県や他市から自治会のリサイクル事業を見学に訪れる方がいる一方で、立川市内においてはあまり動きが見られない。良い取組に興味を持つために市民意識を高めていくことが重要である。 ・SDGsの取組を今後も継続的に推進するためには、将来を担う子どもたちにもわかりやすく伝えることが重要であるため、教育部においても、SDGsの意識を高める取組や子どもたちへの指導過程があると良い。
公益社団法人 立川青年会議所 片桐 庸行 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・立川市、国立市、武蔵村山市とのSDGs協働推進宣言を締結し、住み続けられるまちづくりに貢献する協力体制を構築した。 ・立川青年会議所内でのペーパーレス化を推進した。 ・立川青年会議所所属メンバーの企業にてSDGs推進のアドバイスや導入補助を行い、地域企業からの取り組みを増やす運動を行った。 ・LIME Xの導入により、紙資源の節約に貢献した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響でお祭りや事業が中止になり、共同で市の取り組みを推進できていない。 ・東京都への報告書など紙で作成しなければいけないものについて、電子化が遅れている。 ・業種によって取り組みづらいメンバーがおり、適切な提案ができていないため全メンバーへの普及には至っていない。 ・費用がかさむため、立川青年会議所からの波及には繋がっていない。
IKEA立川 樋口 通子 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・イケアストアの役割は、循環型社会、地球に優しく健康的な食事、持続可能な製品等、持続可能な暮らしの日々のニーズに応えることであり、社員とお客さまにそのインスピレーションを提供することによって、実現できると考えています。店内では、お客様エリア、従業員エリア共、それに向けた様々なコミュニケーションや学びの場が設けられています。 ・IKEA立川では、ストア周辺のコミュニティーで暮らす子どもの支援を目的とし、子どもたちの成長を支える施設を対象として、イケアの商品を寄付する活動をしています。この活動では、イケアストアの従業員も一体となって子どもたちをサポートするために、商品の寄付だけでなく、対象施設のインテリアデザインから設置まで協力しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブルな生活に対する興味/関心が、まだまだ低く、地域社会に根付いていないと考えています。イケアとして発信し続けることは使命であり、その術に関しては課題でもあるところですが、地域社会にポジティブな影響を与えるために、どのように発信の場を確保し、広げていくかは今後取り組みを強化したい部分となっています。 ・この地域の本当のニーズは何かを知ることが最大の課題です。待機児童なのか、シングルマザーへのサポートなのか、貧困なのか。この活動を広げていきたいが、限られた資源と時間の中で、より効果的に実施するために、データ等の事実に基づき行っていく関係性を確立したいと考えています。

委員名	個人や団体で現在実施しているSDGsに貢献する取組について	取組を進める上での課題等について
<p>国際基督教大学 中村 衣里 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女別トイレの使いづらさや違和感を訴える学生の声に配慮し、大学本館の中央にある大きな男女別トイレを、1～3階までオールジェンダートイレに改築した。16個室のうち、11個は洋式便座、4室は小便器、残る1室は広めのスペースを確保し、身体障害者も利用しやすい構造。個室の密閉感、音漏れを防止する材質、凹凸をなくし盗撮を防止、迷路のような構造で人に会いづらい、デッドエンドを作らない、「隠し扉」の設置で男女別に分けることも可能な構造、などの工夫点がある。 ・男女別の寮やフロアに違和感を感じる学生に配慮し、大学内の寮に（ジェンダーを含むあらゆる多様性を尊重する）ダイバーシティ・フロアを設置。 ・男女別の健康診断だと受診しづらい学生に配慮し、大学の健康診断に男女別の時間にプラスしてオールジェンダーの時間を設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内アンケートでは200名を超える学生が回答し、「大変満足」と「満足」が約60%、「普通」が約30%だった。一方、「利用したがやはり不安だ」と答えた人も15%いる。また、コロナ禍で利用者が少ないため問題なく運用されている可能性もあり、今後、盗撮や生理用品の盗難などが起こらないよう利用状況を注視していく必要がある。オールジェンダートイレが設置される前後は学内に戸惑いの声が少なからずあったことも事実で、否定的な意見も聞かれた。設置の意義や目的、理念についてなどを積極的に周知していく必要がある。
<p>立川市教育部 統括指導主事 寺田 良太 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年3月に公示された小・中学校学習指導要領においては、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科においても、関連する内容が盛り込まれている。教育が全てのSDGsの基礎と考え、日々の教育の充実を図っている。 ・全小中学校を教育課程特例校として、「立川市民科」を教育課程に位置付け、多様性を尊重し、世界の人々とも力を合わせ、「よりよい社会」の実現に向け、主体的に考え、行動する市民を育成することを目的とし、コミュニケーション力、課題解決力、多様性を尊重し、まちを大切にしようとする思い、情報活用力などを育む。これらの力は、「持続可能な社会の創り手」の育成にもつながると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、SDGsを自分のこととして考えられるようになり、SDGsの知識を、実生活につなげられるようになるために、各教科で取り上げられているSDGsにつながる内容を、教員が理解した上で、子どもたちに指導していく必要がある。 ・持続可能な「立川市民科」の取組とするため、その目的や各学校の取組内容を保護者や地域に周知し、理解と協力を図っていく必要がある。
<p>立川市副市長 田中 準也 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの実現のためには、職員一人ひとりがSDGsを意識することが重要であることから、市の最上位計画である総合計画とSDGsの関係を整理し、各施策とSDGsの関連について、一覧表を作成した。自らの業務がどのSDGsに貢献しているか、職員が意識付けをするきっかけとなっている。 ・総合計画における重要度が高く、ステークホルダーとの連携が強い事業で、「持続可能性」「差別の解消」「将来世代」等のキーワードが事業目的に含まれる事業について、SDGs重点取組事業として選定した。それぞれ事業紹介シートを作成し、市のSDGsの具体的な取組として、ホームページで発信を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の総合計画とSDGsの関連付けについては、施策を担当する課の職員や、管理職がSDGsを意識するきっかけとなっており、一定の効果が得られている。更なるSDGsの推進のためには、一部の担当職員や管理職だけでなく、すべての職員がSDGsを意識することが重要である。そのため、職員研修等を通じた、SDGsの職員理解の促進が求められており、どのように職員研修を実施していくか引き続き検討が必要である。 ・SDGsの取組を今後も継続的に推進するためには、将来を担う子どもたちにもわかりやすく伝えることが重要である。このため、市の重点取組事業紹介シートについて、子どもたちにもわかりやすく情報発信していく工夫が必要である。